

市民と大学 連携し再生

春日井市西尾町の県有林で、東海三県の一部で見られない貴重な樹木シデコブシの群落地がある。ちょうどこの時期、白や紅の美しい花を咲かせているが、二十年ほど前は荒れ果てた林だった。この場所でシデコブシの群落の再生活動が続けてきたボランティア「みどりのまちづくりグループ」の高橋勇夫顧問(へきろう)と、現地を歩いた。

(磯嶋康平)

春日井・シデコブシ群落地

県有林は、オールドレイクゴルフ倶楽部(同町)と中央自動車道の間に広がる。訪れた三月下旬、細い



◎ことしも愛らしい花を咲かせたシデコブシ
◎シデコブシの保全活動が続ける高橋さん(左)と南教授=いずれも春日井市西尾町で

わが街ぶらり探訪

道を進むと、林の一部〇・七杉ほどの一带に、二百本近いシデコブシが斜面を覆う光景が目に入った。グループとともに保全活動を進めてきた中部大応用生物学部の南基泰教授(みん)は「シデコブシは世界で愛知、岐阜、三重の一部の湿地で見られない」と話す。この場所のシデコブシもかつてはもっと広範囲に自生し、近隣の坂下小学校の校歌の歌詞に登場するなど人々に親しまれていたという。

しかし里山の荒廃や周辺の開発などが原因で数を減らし、現在は環境省のレッドリストで、生息条件が変化すれば絶滅の恐れが高くなる「準絶滅危惧種」に指定されている。

「この辺りは昔、はげ山だったんですよ。高橋さんがそう教えてくれた。高橋さんによると、第二次大戦中から戦後にかけて開墾、乱伐、盗伐があり、岩や土がむき出しの裸地化。一九五一年に森林法で伐採などが制限され、いったん



人の手が入らず荒れていたという以前の林の様子=2008年撮影、みどりのまちづくりグループ提供



はかつての姿を取り戻したものの、その後、人の手が入らなくなり放置されるようになった。

高橋さんが九六年に初めて訪れた際にはひどい状態で、「シデコブシは他の雑木に光を遮られ、花をつける元気がすらないほどだった」と振り返る。

それ以前から市内で環境保全活動を行っていた高橋さんは、中部大の教授か南を紹介してもらい、二〇〇七年からシデコブシの再生活動をスタートした。

群落地を「手を入れない」「シデコブシ以外の樹木を伐採する(除伐)」「シデコブシを含めてすべて切る(全伐)」の各ゾーンに分け、再生状況と有効な保全方法を検証。その結果、日光を十分に浴びられることなどから、全伐ゾーンが最も元気に育った。

みどりのまちづくりグループでは、シデコブシ群落地の保全の輪を広げようと、「春日井市西尾町シデコブシ群落守る会」への企業、個人の参加者を募集している。

活動は月一回ほど、現地での除伐や花・新芽の数の調査、天然記念物指定を目指したPRなどを予定。協賛金による支援も募る。群落地は県有林のため通常は一般の立ち入りが認められていないが、

企業・個人の参加募集

「守る会」、協賛金支援も

希望者には九日に現地を案内する。

グループの高橋顧問は「保全には多くの人や企業の協力が不可欠。ぜひ協力いただければ」と呼び掛ける。併せてグループの会員も募集している。

参加もしくは見学希望者は、高橋さんまで電話090(8546)55090かメール(takaisao@re.co.mmufa.jp)で連絡してほしい。

井市西尾町シデコブシ群落守る会」が発足する予定だ。高橋さんは「ここは人の環境破壊から再生した場所。多くの人に知ってもらい、環境保全のシンボルとして残していきたい」と話している。